

特集によせて

花里善夫

Yoshio Hanazato

三菱電機㈱

今回の特集は、「賛助会員企業 最新技術紹介」という今までとは異なる、一風変わった題になっている。なぜこんな特集になったのか？ について簡単に説明したい。

学会誌 EICA 編集委員会では、2002 年の 7 巻 3 号より、社会環境・政策の変化に合わせて、それぞれの時期に会員に関心の高いと想定されるテーマ（技術・政策動向等）について、国内あるいは一部海外の複数の第一人者に寄稿してもらうことで特集を組み、会員の皆様に情報を提供してきた。現在もこの企画は継続しており、表に示すように、前号（17 巻 4 号）までに 25 の特集を掲載している。

特集を企画するにあたっては、なるべく多くの会員に関わりが持てるように、水環境（上水・下水）、大気環境、廃棄物、処理、制御、計装など、分野の配分にも配慮し、どのような内容で構成するかを編集委員会で検討しながら決定しているが、“多くの会員に共通する”という選択肢が、専門的に多数派に属する会員対象となることにもつながり、少数派的な専門分野を対象とした記事の発信ができないという問

題点もあった。このような声が編集委員会に寄せられたことを契機に、何か対策が打てないものか？ という点で検討することになったのである。

今までは、編集委員会で、特集で取り上げるべき内容という枠を設けて、それを会員に提示する、すなわち編集委員会→会員、という一方向的な流れであったことが一因であると考え、いっそ、会員側から提供したい技術情報を募集し、内容に関して、敢えて統一性を持たせない特集というものはどうか！ そして、この会員→会員の情報発信によって、今まで以上に情報交流のメリットを感じて頂きたいという期待を込めて、今回の企画に至った訳である。

EICA の賛助会員会社 16 社に技術紹介記事の執筆を依頼し、賛同を頂けた会社からの寄稿を今回の特集とした。この特集によって、上記課題の解決につながったかについては、会員皆様の判断に委ねる次第である。なお今後は、また、しばらく従来のやり方に戻し、特集企画を提供していく予定である。

現在までの掲載特集一覧表

番号	巻・号 (年)	特集内容	番号	巻・号 (年)	特集内容
1	7・3 (2002)	インテリジェント情報処理による上下水道プロセス制御への期待	14	12・1 (2007)	バイオマス—エネルギー資源としての可能性と課題—
2	7・4 (2003)	水の自由化	15	12・4 (2008)	バイオセンサー
3	8・1 (2003)	エネルギー新時代に向けて	16	13・1 (2008)	シミュレーション技術
4	8・3 (2003)	微量有害物質モニタリング	17	13・4 (2009)	持続可能な循環型社会形成のための LCA の役割
5	8・4 (2004)	ごみ処理 (バイオマス)	18	14・1 (2009)	りん資源の循環
6	9・1 (2004)	バイオアッセイ	19	14・4 (2010)	地方自治体の持続可能社会へ進むべき道を探る
7	9・3 (2004)	シミュレーション技術	20	15・1 (2010)	地球温暖化 ～気候変動
8	9・4 (2005)	遠隔監視技術に支えられた環境施設の民間委託	21	15・4 (2011)	膜処理技術
9	10・1 (2005)	地球規模大気モニタリングシステム	22	16・1 (2011)	環境人材育成のための取り組み
10	10・3 (2005)	合流式下水道における計測・制御技術	23	16・4 (2012)	自動計測システムを利用した環境管理の最前線
11	10・4 (2006)	先端のごみ処理・資源化施設を生かした廃棄物管理システムの構築を目指して	24	17・1 (2012)	シミュレーション
12	11・1 (2006)	上下水道の高度処理	25	17・4 (2013)	水環境中の PPCPs (医薬品類)—汚染実態と分解・除去技術の最新動向—
13	11・2/3 (2006)	環境関連公共施設における安全・安心			